

## 平成 21 年度共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名	和文：第 4 回 「地文台によるサイエンス」シンポジウム 英文：4th Symposium on the Science by the CHIMON Observatory
研究代表者	甲南大学・理工学部・教授 梶野文義
参加研究者	理化学研究所・主任研究員 戎崎俊一 名古屋大学・太陽地球環境研究所・准教授 松原豊 東京大学宇宙線研究所・特任助教 宮原ひろ子
研究成果概要	<p>平成 21 年度 第 4 回 「地文台によるサイエンス」シンポジウム を以下のように開催した。</p> <p>日時：2010 年 1 月 25 日(月)～26 日(火)</p> <p>場所：東京大学 宇宙線研究所 6 階 大会議室</p> <p>主旨：「天文台」が地から天を観る観測施設なのに対し、「地文台」は天から地を観る観測施設である。地文台の役割は「地そのものの研究」にとどまらず、「地を通した天の研究」におよぶ。このような「地文台」という概念からどのような科学研究が可能なのかを広い分野の専門家と議論を行なう。今回は「極限エネルギー粒子天文学」、「大気科学」、「雲の物理」、「気候と宇宙線」、「宇宙からのリモートセンシング」をテーマにして開催する。</p> <p>組織委員：梶野文義（甲南大）、寺澤敏夫（宇宙線研）、草野完也（名大 STE）、 戎崎俊一（理研）、宮原ひろ子（宇宙線研）</p> <p>参加者数：51 名 発表者数：24 名</p> <p>公表方法：第 4 回 「地文台によるサイエンス」シンポジウム ホームページ <a href="http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/~hmiya/sympo/chimon2010.html">http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/~hmiya/sympo/chimon2010.html</a> にプログラム、発表資料、参加者集合写真等を掲載。</p>

## シンポジウムプログラム

1月25日 (月) \_\_\_\_\_

- |      |                    |   |
|------|--------------------|---|
| 戒崎俊一 | 理化学研究所             | はじめに  |
| 佐藤文隆 | 甲南大学               | 地文台によるサイエンス   |
| 松枝達夫 | JAXA 宇宙環境利用センター    | 宇宙ステーション計画の概要と現在の状況                                 |
| 五家建夫 | JAXA 研究開発本部        | 宇宙環境計測ミッション装置 SEDA-AP                               |
| 松岡勝  | JAXA ISS 科学プロジェクト室 | 全天 X 線監視装置 MAXI                                     |
| 佐野琢己 | JAXA 宇宙科学研究本部      | JEM 搭載超伝導サブミリ波リム放射サウンダ (SMILES)による初期成果              |
| さこ隆志 | 名古屋大学太陽地球環境研究所     | LHCf 実験 : status report of the first LHC collisions |
| 田村忠久 | 神奈川大学工学部           | JEM 曝露部における CALET ミッション概要                           |
| 梶野文義 | 甲南大学理工学部           | JEM-EUSO ミッション                                      |
| 寺沢敏夫 | 東京大学宇宙線研究所         | 高エネルギー宇宙線の電波的観測                                     |
| 鷲見治一 | アラバマ大学 CSPAR 研究所   | 太陽圏外圏構造と宇宙線侵入過程                                     |
| 中村卓司 | 国立極地研究所            | 対流圏と中間圏・熱圏・電離圏の上下結合 一様々のスケールの大気波動の役割一               |

1月26日 (火) \_\_\_\_\_

- |      |                  |                                       |
|------|------------------|---------------------------------------|
| 高橋幸弘 | 北海道大学大学院理学院      | 雲量と雷放電活動で探る太陽地球気候変動結合                 |
| 佐藤正樹 | 東京大学気候システム研究センター | 全球雲解像モデルによる気候研究<br>一雲微物理過程と気候感度の観点から一 |
| 草野完也 | 名古屋大学太陽地球環境研究所   | 第 1 原理雲モデルとしての超水滴法の開発と応用              |
| 和田智之 | 理化学研究所           | JEM-EUSO 大気モニターを利用した大気科学への応用          |
| 長門研吉 | 高知工業高等専門学校       | 下層大気における微粒子の生成と成長メカニズム                |
| 増田公明 | 名古屋大学太陽地球環境研究所   | 名古屋における雲核生成実験                         |
| 富田成夫 | 筑波大学             | 陽子線を用いたイオン核生成実験                       |
| 片岡龍峰 | 東京工業大学           | 超新星爆発と地球環境                            |
| 戒崎俊一 | 理化学研究所           | 太陽活動と火山活動の相関について 一泡箱としての火山一           |
| 丸山茂徳 | 東京工業大学           | 気候変動原理と古気候一何が地球平均で、何が地域的か？            |
| 桜井敬久 | 山形大学理学部          | 2600 年前の C14 濃度変動と太陽活動                |
| 黒田友二 | 気象研究所            | 太陽黒点変動と気候変動の関係                        |
| 余田成男 | 京都大学大学院理学研究科     | 太陽活動変動の地球気候への影響                       |
| 戒崎俊一 | 理化学研究所           | Discussion                            |
| 梶野文義 | 甲南大学             | おわりに                                  |

整理番号 G27